

特集

「イヤとキライ」の心理学

「キモイ」「クサイ」「オエッ」などという言葉はよく会話で耳にしますし、あまり良くないと思っけていても、つい口から出てしまうこともあります。これらの言葉は他者に配慮がない身勝手な子どもっぽい反応のように聞こえますし、言われた人の胸にぐさっと突き刺さるかもしれません。とはいえ、ほとんどの人が、特定のもの、行動、人たを毛嫌いしたり、不快に感じ、「生理的に合わない」という反応をもっています。

これらは、嫌悪の感情と言えます。自分からみて汚いもの、自分に合わないもの、自分の健康だけでなくイメージを損なうようなものを遠ざける役割をもつ嫌悪の感情は、人間が生物としての生存と適応力を高めるために進化の過程で身につけてきたものです。しかし、嫌悪が自分に向けられたり、極度に強すぎたり、不適切な場面で感じたりすることで、その人の行動を制限することもあります。

本特集では、嫌悪に関する心理学の知見をさまざまな視点から紹介し、人の心理的適応、問題、成長にどのように嫌悪がかかわっているのか、考えていきます。

(岩壁 茂)